

経営者のための子育て応援職場づくり情報誌

2006 October
VOL.7

人財を活かす



伸びる企業には理由がある

仕事と子育ての両立支援企業、業績も好調!!

トップインタビュー

エヌビーエス(株)

杉循環器科内科病院

(株)エヌ・エル・エー

ハゼモト建設(株)

クローズアップ

西日本鉄道(株)

子育て応援宣言

登録企業が400社突破!! 一覧を掲載

伸びる企業には理由がある



杉 健三 理事長兼院長

すぎ・けんぞう●筑紫野市二日市出身。58歳。県立修猷館高校卒—久留米大学医学部卒。久留米大学第三内科にて循環器内科学を専攻後、87年大牟田市に杉循環器科内科病院を開業

そんな同院はさらに昨年11月、「子育て支援会」を発足した。きっかけは理事を務める院長夫人がある職員から子育ての悩みを打ち明けたこと。

「夜勤もある当院で、子育てや介護を含め家庭の悩みや心配を持っているのはこの職員に限らないはず。気軽に相談できる場を設けることで、もっと仕事

に専念できる」

支援会では講師を招いた講演や個別相談会、親子ふれあい旅行などの企画を継続的に実施。紫牟田静子看護部長は「職員間に家族ぐるみの繋がりも芽生えた。院長が支援会を後押ししてくれ、子育て応援宣言」で意思表明してくれたことも職員には心強い」と手ごたえを語る。

「今後は介護分野も視野に、療養型医療への対応や医学的フィットネスにも挑戦したい」と語る杉院長。安心して働ける職場こそが従業員の自己研鑽を後押しし、その「質」を高めている。

厚生労働省（<http://www.mhlw.go.jp/>）が6月、「育児のラスの効果がある」とする調査結果を発表した。経営者に事と子育ての両立支援を実践しながら、業績が好調な企業・

「病院といえども企業。人・物・金の三大要素のうち、病院はまさしく“人”で成り立ち、その質を確保することで理想の病院に近づくことができる」と説くのは杉循環器科内科病院の杉健三院長。同院は87年に開業。半年後には「救急病院」に指定され、以来大牟田地域の循環器系（心臓）疾患の救急および2次医療を担うとともに、血液透析を軸とした腎臓内科としても有数となった。

「特定分野で地域に欠かせない医療機関にしたい」と職員80人を抱えスター

トしたが、すぐに軌道に乗れたのは看護部を統括した久留米大学の元総婦長、柳田ユイ子氏の存在が大きかった。定年で退いていた氏を招いた杉院長は「職員の能力を最大限に発揮できる病院を作りたいという私の理念を理解してくれ、質と制度・システムの両面で基礎を築いてくれた」と回想する。

現在職員が120人を超え、女性が100人を占めるが、開業以来定着率は良く、育児休業後の職場復帰もほぼ100%を達成している。



95年に増築した腎センター棟は、血液透析ベッド数41床と大牟田有数の規模。左から3人目が紫牟田看護部長、右から2人目が「子育て支援会」を担当する二宮裕恵さん

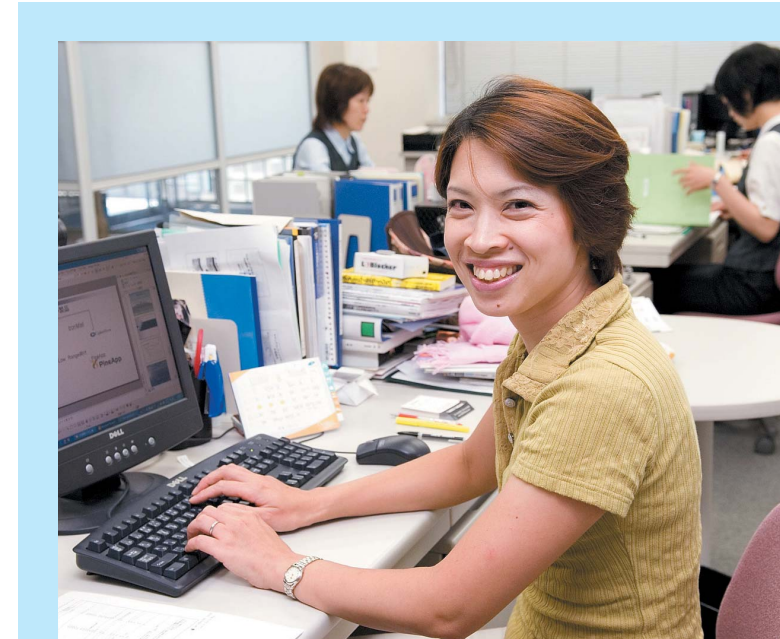
働きやすい環境こそが仕事の“質”を高める

医療法人シーエムエス 杉循環器科内科病院（大牟田市）

ための短時間勤務制度や法定期間以上の育児・介護休業など、仕事と家庭の両立支援策の充実が、企業の業績にブ

としては、両立支援と業績の関係は非常に関心の高いところ。今回は福岡県の「子育て応援宣言」登録企業で、仕

病院を紹介する。



システム設計で活躍中の山口和恵さん。「技術職として今まで積み重ねてきた経験を活かし、自分のできることで会社に貢献したい」

今年20周年を迎えたエヌビーエス株式会社は発電プラント中心の電気工事業者であり、98年に九州企業で初めて、情報セキュリティ事業に参入。現在5期連続増収と16期連続黒字を記録中だ。

「良いことをすれば、良いことが返ってくる」と語る石橋一海社長。年間休日124日や65歳定年制など大手並みの制度をいち早く取り入れてきたが、従業員に対する仕事と子育ての両立支援に関してはもっと柔軟だ。

情報セキュリティ事業部のエンジニア、山口和恵さんは98年に大手から転職後、3度の出産を経験。「最初に育児休業を申し出た時、社長の“いいよ”の明るい

ひと言に不安やプレッシャーから解放された。2、3人目の出産にもまったく迷いはなかった」と感謝する。

このほか出産退職後1年を経た元女性社員の職場復帰や短時間勤務など、事情に応じて柔軟に対応してきた。「子育て応援宣言」では、これらの取り組みを宣言化するとともに、「男性は技術屋ばかりなので本人が取得を嫌がる傾向にあるが、必要になった時に気兼ねなく取れるようにしたい」と、男性の育児取得の環境整備も宣言した。



石橋一海 社長

いしばし・かずみ●八女市出身。63歳。県立八女工業高校卒業後、小野田セメントを設立。85年に現在のエヌビーエス株式の前身会社を設立

「女性力は仕事以外で男性に負けることはない。要はやる気と能力」が持論の石橋社長。「子育て応援宣言」への登録は今在籍する従業員に向けてはもちろん、今後積極的に採用したいという女性技術者に向けてのメッセージでもある。

「約20年前、大阪の会社の女性鉄筋工を見て以来、女性の戦力化をずっと考えてきた」。主力の発電プラント工事の

7割が海外事業とあつてなかなか女性の現場派遣には至らなかったが、2年前に台湾新幹線工事で実現した。「当初1カ月の予定が、優秀だったため今年10月の開通まで延びた」と目を細める。

8月の記念祝賀会では「株式公開」も宣言したそう、性別、学歴にとらわれず採用し、今年1月に購入・移転したこの5階建て本ビルで育成したい」と構想は広がる。

個別の事情に柔軟に対応し女性を戦力化

エヌビーエス株式会社（福岡市）